

令和6年度

教科書調査研究報告書

中学校

数 学

富士地区教科用図書採択連絡協議会  
富士地区教科書研究委員会

## I 調査研究対象教科書

発行者	書名	学年
2 東京書籍	新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～	1～3年
4 大日本図書	数学の世界	1～3年
11 学校図書	中学校 数学	1～3年
17 教育出版	中学数学	1～3年
61 新興出版社啓林館	未来へひろがる数学	1～3年
104 数研出版	これからの 数学	1～3年
116 日本文教出版	中学数学	1～3年

## II 調査研究の観点

### 1 内容

- (1) 数量や図形などについての基礎的な内容を理解するとともに、技能が身に付くために、どのように工夫されているか。
- (2) 数学を活用して、論理的、統合的・発展的に考察する力、簡潔・明瞭・的確に表現する力が育つために、どのように工夫されているか。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感したり、数学を教科横断的に生かそうとしたりする態度が育つために、どのように工夫されているか。

### 2 組織・配列・分量

- (1) 系統的・発展的に学習を進めるために、教材の構成はどのように工夫されているか。
- (2) 基礎的な内容の理解や確実な定着を図るために、どのように工夫されているか。
- (3) 生徒が既習の内容を振り返りながら、主体的に学習が進められるよう、どのように工夫されているか。

### 3 生徒の発達段階への配慮

- (1) 生徒の発達段階に応じた教材やその扱いは、どのように工夫されているか。
- (2) 生徒が自主的・意欲的に学習を進めるために、生徒の興味・関心や生活体験に基づく教材は、どのように工夫されているか。

## 別紙様式 2

種目名	数 学
-----	-----

発行者 番号 略 称	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
2 東書	東京書籍	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツが充実している。フラッシュカードや問題解説、問題の補足説明等が用意されており、個別での学習にも対応している。動画・シミュレーションは、生徒が主体的に取り組むために問題を把握しやすい。実際に動かしながら考えることができるため、事象の連続性を捉えたり、複数の条件から値を変化させて考察し、発展的に考えたりしやすいように配慮されている。</li> <li>資料の活用・データの比較等の単元では、多くのデータが用意されており、様々な場面においてのデータから比較・分析することができる。1年7章「データの活用」では、データにもとづいた問題解決の過程を振り返るページがあり、どのように解決していけばよいかの道筋がわかりやすい。また、結論が1つではなく、それぞれの見方や分析方法によって結論が変わること、再度データを収集し、検討する必要があることなど、問題解決に向けた進め方がわかりやすくまとめられている。</li> <li>章のとびら、導入では、身近な事象を提示し、単元を通してどのような内容を学習するのか、どのような資質・能力を身に付けるのかがわかりやすく、学習の見通しをもつことができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クイックチェックや、巻末の「学びのベース」「補充の問題」と、問題数が豊富にある。多くの問題を解くことができ、生徒のつまずきに対応できるよう工夫されている。また、クイックチェックには、すべてにデジタルコンテンツでヒントと解答が用意されているため、すぐに確認ができたり、つまずきにはヒントを見ながら考えたりすることができる。</li> <li>節の終わりに「学びをふり返ろう」があり、見方・考え方の振り返りができる場が設定されている。また、「ふり返りレポート」では、章で働かせた見方・考え方を振り返ってレポートにまとめる課題があり、主体的に学習に取り組む態度の評価ができるような工夫もある。</li> <li>0章として、算数と数学の学びをつなぐ、小中の接続を意識した構成となっている。正負の数より前に、素因数分解を取り扱うため、自然数の範囲で混乱なく考えることができるよう配慮されている。</li> <li>ストーリー性のある題材構成のため、生徒の学ぶ意欲が高まり、単元全体で問題を解決できるようになっている。3年4章では、</li> </ul>

		<p>導入でジェットコースターが斜面を下りる場合の時間と距離の関係を扱い、その後、本文で同じ設定で変化の割合を扱い、導入で考えた関係をさらに考察できるようになっている。</p>
		<p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文節で改行することや、色分けが少ないため、視覚刺激が少なく読みやすくなっている。また、QRコードがあるページの場合、必ずページの右下と、定位置に配置されているため、どの生徒にとっても活用しやすい。</li> <li>・登場人物は、登場回数や役割で性別が偏っておらず、多様性に配慮している。</li> <li>・例や問に罫線を入れてまとまりを示しており、生徒が読みやすい紙面になるように配慮されている。</li> <li>・問題のヒントや解答があったり、フラッシュカードで多くの復習問題が繰り返しできたりするデジタルコンテンツがあり、個に応じた学習が進めるようになっている。また動画を利用することで、一人ひとりの実態に応じた支援や個別学習に対応することができている。</li> <li>・問、基本の問題、章の問題に「チェックボックス」があり、生徒が自らの学習状況を把握することができるようになっている。また、必ず身に付けてほしい基本問題にはハートマーク、少し難しい問題には星マークをつける等、問題の重要度が生徒に伝わるようになっている。</li> </ul>
		<p>&lt;総評&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台端末を学びの文房具とするために、動画やフラッシュカード等のデジタルコンテンツが充実している。</li> <li>・各章の導入で章を貫く題材を提示し、導入の問題を章全体で解決していくような作りになっている。その章で学ぶこと、既習事項からどのような発展があるのかが明記されているため、学びがつながる工夫がされている。</li> <li>・「数学のつながり」を「MATH CONNECT」として最初に示し、数学の有用性を実感できる。「数学×社会とつながる」等、身近な内容が扱われており、生徒の主体的な学びを後押ししている。</li> </ul>

## 別紙様式 2

種目名	数 学
-----	-----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
4 大日本	大日本図書	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭の「数学の世界へようこそ」では、数学的な見方・考え方の説明があり、数学の学習の進め方を意識して授業を進めることができる。また、統計の問題では、課題解決のために必要な PPDCA サイクルが書かれており、それに沿って数学的活動に取り組むことができるようになっている。</li> <li>・ 各章の終わりには「活用・探究」があり、その単元で学んだことが日常や他教科とどのようにつながっているのかを認識することができるため、学習への興味関心につなげることができる。</li> <li>・ 各章の終わりや巻末にある「MATHFUL」では、すぐに測れる体温計や水の量を計算する炊飯器、リレーのバトンパスなど、実生活に使われている数学を学ぶことができたり、フード・マイレージや物体の落下運動など、他教科とのつながりを知ったりすることができる。</li> <li>・ 「学びにプラス」では、生徒が間違いやすい問題を確認できたり、高校数学に触れることができたりと、発展的な内容を学習することができる。</li> <li>・ 「社会にリンク」では、社会で働いている人のインタビュー記事が掲載されており、数学と仕事のつながりを知ることができる。</li> <li>・ 巻末に前年度の復習問題と学習内容のまとめがあり、既習事項の確認ができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各章、各節の項ごとに、タイトルが書かれていて、その時間に学習すべきことが分かるようになっている。また、配当時間が項タイトルの右に□の数で表示されていて、教員も配当時間を考えながら授業を進めることができる。</li> <li>・ ページにカラーのインデックスがついており、その章のページが開きやすくなっている。</li> <li>・ 巻末に前年度の学習がまとめられているため、いつでも既習事項を確認することができる。</li> <li>・ 適用問題「Q」に適宜「プラス・ワン」がついていて、<math>+\alpha</math>の学習をすることができる。また、解答が次のページに記載されているため、生徒が主体的に学習を進めやすくなっている。問題数も適切で、進度や習熟度に合わせて、個に応じて利用できるようになっている。</li> </ul>

	<p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する文字の大きさが1年と2・3年で変えられていて、小学校算数や高校数学とのギャップが少なくなるような配慮がされている。</li> <li>・色覚の違いによって学習に支障が出ることがないように、カラーユニバーサルデザインをふまえた色遣いが工夫されている。また、活動や例と問が違う色で表示されているため、区別しやすいように工夫されている。</li> <li>・「学びにプラス」「活用・探究」「社会にリンク」などの数学の世界をさらに広げる問題や読み物で、数学的事象を深めることができるとともに、高校などへの内容も扱っていて、発展的学習にもつなげることができる。</li> <li>・例題に「同類項のまとめ方」「多角形の内角の和」といったタイトルがあることで、何を学習しているのかが明確であるため、既習事項の復習の際に、どこを確認すればよいか、どの生徒にとってもわかりやすい。</li> <li>・登場人物がバランスよく採用されており、人権教育や異文化交流などに配慮されている。</li> </ul> <p>&lt;総評&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「MATHFUL」や「社会にリンク」等、数学が身近に感じられる内容が多くあり、興味関心や、学習に対する必要観をもつことができる。</li> <li>・伝統文化を尊重する態度が育成できるように和算や折り紙を題材とした問題が取り上げられていたり、障がいをもつ人への理解を促せるように、点字やオリンピック・パラリンピックについての題材を取り入れたり、道徳教育にも配慮がされている。</li> <li>・巻末の補充問題や総合問題も充実しており、たくさん問題を解くことができる。</li> <li>・データの活用の単元では、3学年通して統計的な問題解決の方法であるPPDCAサイクルが提示されており、生徒が解決方法を意識した学習ができるような配慮がされている。3学年で提示されていることにより、統計学習だけに限らず、数学的活動において問題解決の方法を身に付けることができる。</li> </ul>
--	---

## 別紙様式 2

種目名	数 学
-----	-----

発行者 番号 略 称	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
11 学図	学校図書	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭の「数学見つけた」、巻末の「さらなる数学へ」では、SDGsに触れたり、今日的な課題などを取り上げたりすることで協働的な学びとつながる。また、プログラミング教育なども扱っており、カリキュラムマネジメントの視点でも利用しやすく、他教科との関わりを意識した教育活動を行うことができる。</li> <li>・ 静岡県に関連する写真があり馴染みやすいため、富士地区の生徒にとっては興味をもてるようになっている。</li> <li>・ 「説明する力をつけよう」や「見方・考え方」のアイコン等は、数学的思考の向上や確かな学力育成につながる。</li> <li>・ 各章のはじめで生徒同士の会話から課題（問いかけ）が提示されていることで、その単元で学ぶべきことを意識でき、見通しをもって学習を始められるようになっている。また、実生活と関連のある内容を取り扱っているため、課題に対して生徒がイメージしやすいものになっている。</li> <li>・ 「活用」や「深めよう」で、実生活の中からの問題提示に加え、既習事項を使ってさらに理解を深めるような課題が提示されており、関心をもって取り組むことができる。問題の中には、関連する職業・仕事が記載されていたり、他教科との関連がある内容だったり、他とのつながりが示されている。</li> </ul> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年3章1節「方程式」で、最初に「等式と不等式」を扱い、不等式を定義することで等式の理解を深められるように配慮されている。また、1年5章1節「いろいろな角の作図」で、2直線が平行であることを記号で表すことや平行線の作図を学習した後に、「平行線と面積」を扱っている。内容のつながりを意識することで生徒が理解しやすい構成となっており、非常に良い。</li> <li>・ デジタルコンテンツを利用して、思考の流れや事象の連続性を視覚的に捉えたり、補充問題で実態に応じて取り組んだりすることができる。特に、作図の単元では、「アニメーション」で手順が示されているため、動画を見ながら作図することができる。また、「パトロール隊」では、クリックするごとに解法の手順が示されるため、解き方を確認しながら解き進めることができる。</li> <li>・ 分量は適量で、標準的な問題が多くある。まとめの問題には応用問題、活用問題があり、個別最適な学びにつながる。</li> <li>・ 「Q・課題発見→目標→数学的活動・課題解決→わかったこと・まとめ→次の課題発見」のサイクルで学習を進めることができるよ</li> </ul>

	<p>う配列されており、学びの流れがわかりやすい。また、「Q・課題発見」では、問題箇所をインデックスでわかりやすく表示しており、学習に取り組みやすいよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年1章4節「素数」で、素因数分解を学習したところから、ページ数が素因数分解で表示されていて、生徒が興味関心をもつことに期待できる。</li> </ul> <p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見やすいフォント（UDフォント）を利用し、文字の大きさ、余白等も配慮されている。文節による改行のため、文章を読む段階でつまづくことがないように配慮されている。</li> <li>・ 図形の証明等において、仮定は青、結論は赤で統一されており、視覚的に捉えやすくなっている。</li> <li>・ ノートの使い方を各学年の巻頭で取り上げることで見返しやすいノートの作り方が示されている。また、「例」の解答をノート形式で示すだけでなく、式の説明なども「書いておこう」「分数は2行使って書こう」といった留意点もあり、生徒にとってまとめやすくなるような工夫がされている。</li> <li>・ 多数の考え方ができる場合には、デジタルコンテンツを利用して提示したり、比較しやすいように2列にして提示したりするなどして工夫されており、学習を進めやすいように配慮されている。</li> </ul> <p>&lt;総評&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準的な分量、難易度であり、教科書全体で自学自習ができる構成になっている。学習の見通しや振り返りも生徒自身でできる。</li> <li>・ 巻末や章末には、個に応じて取り組める課題も用意されており、個別最適な学びにもつながる。</li> <li>・ 吹き出しや会話が多く、授業における対話を意識させる作りとなっている。生徒同士の話し合いを様々な場面で設定しており、「説明する力をつけよう」を領域ごとに設定し、他者へ正確に伝えるためにはどんなことが必要か考えさせるようになっており、「主体的・対話的で深い学び」が意識されている。</li> </ul>
--	--

## 別紙様式2

種目名	数 学
-----	-----

発行者 番号 略 称	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
17 教出	教育出版	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「数学しごと人」がおもしろい。社会で活躍する人のインタビュー内容が掲載され、数学が実社会で役立っていることが実感でき、数学が苦手な生徒も学びに向かう気持ちになれる。</li> <li>・「学びのマップ」を巻末に用意し、既習内容をいつでも振り返ることができるように工夫されている。一部の項目は、「まなびリンク」でアニメーションを見ることもできるようになっている。</li> <li>・「学習のまとめ」や「工夫してノートを書こう」は基本的な内容を確認したり、ノート指導に利用したり、数学に苦手意識をもつ生徒にとって助けになる。「もどって確認」は、既習事項の振り返りにもなる。</li> <li>・各章の「学んだことを活用しよう」では、身に付けた知識や技能を活用する問題を通して、統合的・発展的に思考する工夫がなされている。</li> <li>・単元の最初と単元の終わりがリンクしているものがあり、単元を通じた学習をすすめやすい。</li> <li>・デジタルコンテンツを活用して、問題の解説や図形をよりイメージしやすくするなどの工夫がなされており、個に応じた学習も進められる。</li> <li>・「?」「!」「!？」で思考の流れが分かりやすくなっている。特に「!？」では発展的な考えを導き出すための問いが与えられている。あわせて、巻頭に「大切にしたい数学的な見方・考え方」を設け、既習の具体的な事例をもとに紹介しているため、どのような見方・考え方があるのかを知ることができる。</li> </ul> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年1章「整数の見方」で、素数を取り扱っている。小学校の算数の内容と関連した内容となっているため、生徒にとって学習の流れがわかりやすく、小中の接続がスムーズである。また、素因数分解だけの章を設けているため、わかりやすい。</li> <li>・章の初めには「～章を学習する前に」が設けられており、章の学習の準備として既習内容を確認することができる。</li> <li>・よくある誤答を「まちがい」として例示しているため、生徒は理解しやすい。</li> <li>・問題数は適量である。「たしかめよう」で基本的な内容を確認でき、「力をのばそう」で応用問題を解くことができる。巻末には補充問題も用意され、確かな学力を付けたり、家庭学習で利用したりするための配慮がされている。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「例→たしかめ→問」の構成となっているため、スモールステップを踏んで進めることができる。</li> </ul> <p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例題から丁寧に解説が書かれており、個別学習を進める上でわかりやすくなっている。</li> <li>・重要なポイントがカラーで表現されていて、目に付きやすい。</li> <li>・「学びのプロセス」を設け、問題発見・解決の過程を生徒に意識付けられるようになっている。また、紙面右側には「問題を見いだす→問題をつかむ→見通しを立てる→問題を解決する→振り返る→深める」といったプロセスを示し、思考の過程が視覚的に捉えられるように工夫されている。</li> <li>・「算数から数学へ」は、学習のつながりが明確になっている。</li> <li>・図形の単元では、点や線などを動かすことができるデジタルコンテンツがあり、どの生徒もイメージしながら考えることができる。</li> <li>・紙面及びデジタルコンテンツとも、見やすく、読みやすいフォントが利用されている。また、余白を生かしたレイアウトがされており、落ち着いて学べるよう配慮されている。</li> </ul> <p>&lt;総評&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中の「まなびリンク」と表示されているところでは、デジタルコンテンツによって視覚的に捉えることができ、効果的に学習に取り組める。</li> <li>・「学習のまとめ」「工夫してノートを書こう」「もどって確認」等、基本的な内容の確認やノート指導ができ、数学に苦手意識をもつ生徒にとって助けになる。また、「学んだことを活用しよう」や「ひろがる数学」「数学の広場」等、発展的な課題もあり、個別最適な学びも意識されている。</li> <li>・主に、知識・技能を活用する場面で「学びのプロセスページ」が設けられており、問題解決の過程を生徒に意識付けられるようになっている。</li> </ul>
--	--	--

## 別紙様式 2

種目名	数 学
-----	-----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
61 啓林館	啓林館	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元コードを利用したデジタルコンテンツが充実しており、「動画」「動かす」「プログラミング」「スライドショー」「リンク」「学習したこと、回答」「考え方、回答、解説動画」が用意されている。その中には、生徒が考えを類型化することができるように工夫されているものもあるため、生徒の実態に応じて使い分けたり、個別学習につなげたりできる。特に問題の解説や図形を動かすもの、比例・反比例や一次関数などの連続性があるものを学習する際には生徒の思考を助けるのに参考となると思われる。</li> <li>・教科書の巻末には、学習内容のポイントがまとめられているとともに、これまでの学年の学習の内容も振り返られるようにQRコードが用意されている。</li> <li>・教科書の終盤には、「学びを振り返ろう」「力をつけよう」が設けられており、補充問題も充実しているため、個別学習にもつながられる。</li> <li>・「学びをいかそう」では、体験活動を含めた学習ができるような工夫がされている。「全身がうつる鏡」では、3年5章「図形と相似」の単元と関連付けた内容になっており、教科横断的な内容や上級学年の内容なども取り扱われている。</li> <li>・「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」などの項目が用意されており、授業者や生徒が意識して授業に取り組むことができる。</li> <li>・単元で身に付いた内容を、実感できるような利用問題が多く用いられており、生徒が内容を理解しやすいよう配慮されている。</li> <li>・データの活用の単元では、PPDAC サイクルを意識した構想となっており、生徒の思考が深まるよう配慮されている。</li> <li>・入試問題なども取り入れられており、生徒の関心に沿った工夫もされている。</li> <li>・思考力や判断力が身に付くよう、誤答の誤りを指摘したり、事柄が成り立つ理由を説明する場面が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時数に余裕をもって進められるように、要点を押さえた内容で標準時数よりも余裕をもたせた分量で構成されている。</li> <li>・SDGs やキャリア教育などを意識した内容が用意されており、今後の生活やカリキュラムマネジメントの視点をもって利用することができるように工夫されている。</li> <li>・章末問題の「学びをたしかめよう」と「学びを身につけよう」が適度な難易度で、基礎と応用が学習できる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツの補充問題は、問題数が多く、解答も丁寧なため、個に応じた学習ができるようになっている。</li> <li>・全体的にイラストが多く、身のまわりの情報を取り入れながら考えることができるようになっている。</li> </ul>
		<p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例題で、ノートに示されている解答は、標準的な解答の書き方になっており、ノートの取り方への配慮が見られる。</li> <li>・外国籍のキャラクターを登場させ、多様性に配慮した内容になっている。</li> <li>・問と例に色の違いがあり、重要なポイントがカラーで表現されているなど学習に取り組みやすいよう配慮されている。</li> <li>・章末問題に、考え方、動画、解説動画があり、文字を見るだけでは理解が難しい生徒でも、解説動画によって理解が深まるように配慮されている。</li> <li>・登場人物は性別や国籍など、固定的なイメージで表現しないなど、性別や人種に配慮が見られる。</li> </ul>
		<p>&lt;総評&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツを利用していることで、従来の教科書では不十分だった内容や情報などが収録されており、学級の実態や個別学習に応じて学習を進めることができるように工夫されている。</li> <li>・教科書の後半にある「数学広場」では、振り返り・定着・応用へとつなげられる内容になっており、必要に応じて使い分けできるように工夫されている。</li> <li>・教科書の中で、学習の流れを意識されており、「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」の項目で、協働な学びを意識でき、授業を実施しやすいように工夫されている。</li> <li>・ユニバーサルデザインや人権感覚に対する意識が高く、時代背景に沿った配慮がなされており、活用しやすくなっている。</li> </ul>

## 別紙様式 2

種目名	数 学
-----	-----

発行者 番号 略 称	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
104 数研	数研出版	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の吹き出しを利用することで、個別学習を進めることができたり、学級全体を通して問いや必要感を生み出したりすることができ、実態に応じて利用することができる。</li> <li>・本書の最後には、自己の学び方を振り返ることができる「学びの自己評価」が用意されており、数学の学習内容だけでなく、学び方に対しても PDCA サイクルを意識できるように工夫されている。</li> <li>・郷土にかかわる写真や他教科とのつながりがもてる問題が設けられており、カリキュラムマネジメントを意識した授業構想ができるように工夫されている。</li> <li>・デジタルコンテンツが充実しており、「補充」「イメージ」「資料」「探究」「考察」「用語辞書」「公式集」によって、生徒が必要に応じてコンテンツを選び、自主的に学習を進められるように工夫されている。</li> <li>・解答例や問題の横に、細かい解説や振り返りや教科書の最後に用語集が用意されているなど、数学を苦手としている生徒への配慮が十分になされている。</li> <li>・課題に向かうまでの流れがキャラクターの会話で進められているため、どの生徒も、この章で何を学ぶのか、課題をつかみやすいように配慮されている。</li> <li>・全国学力学習状況調査で課題があるとされている問題も取り上げられているため、生徒の苦手分野を補うことができる。</li> </ul> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の教科書では、「データの活用」の単元の最後に、データをもとに身のまわりの問題を解決する方法の PPDAC サイクルについて掲載されており、今後利用するとき意識することなどがわかるように配慮されている。</li> <li>・他学年との学習のつながりや学習内容が一目でわかるようにまとめられた項目などが用意されており、復習しやすいように工夫されている。</li> <li>・A問題、B問題に加えて、チャレンジ編もあり、難易度の違う問題が豊富にあり、実態に応じて取り組めるよう工夫されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの「Link 補充」では、問題数が多く、定着度を図るのに有効である。難易度も低から高となっているため、個々の能力に合った内容を選択して取り組むことができる。</li> <li>・生徒が学習に取り組みやすいよう、グラフなどは教科書の外側に設けてあるなどの配慮がされている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の最後には「数学旅行」が用意されており、環境問題（SDGs）や数学史、職業など数学に関わる興味・関心がさらにもてるように工夫されている。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図やグラフ、表などを多く扱ったり、デジタルコンテンツなどを利用して図形の特徴を捉えやすくしたりするなど、苦手な生徒にも理解しやすいように工夫されている。</li> <li>・全体的に色が多彩であり、式や図、考え方などをわかりやすくまとめており、生徒の思考を助けるのに参考になると思われる。</li> <li>・デジタルコンテンツを利用した補充問題も充実しており、家庭学習など、個々の実態に応じて利用できるようになっている。</li> <li>・動きを伴う問題では、動画のコンテンツが用意されていることで、視覚的に内容を理解することができ、生徒の思考を助けるのに参考になると思われる。</li> <li>・学びの自己評価があることで、数学で身に付けたい力や、どのように授業に取り組めばよいのかについて共通理解して進めることができるよう工夫されている。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;総評&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインが意識されており、文章や説明が見やすく、わかりやすくなるよう配慮されている。また、数学の学習内容に加え、学習の進め方やノート作り方などの学び方などについても掲載されており、生徒の学びにつなげられるように配慮されている。</li> <li>・本文中の生徒の吹き出しや、問、確認問題、章末の問題、巻末のチャレンジ編など、豊富な演習問題が用意されており、個々の実態にあった学習が進められるよう配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツを利用することで、学校での学習に加え、家庭学習にもつなげることができ、個別最適な学びにつながるよう工夫されている。</li> </ul>
--	---

## 別紙様式2

種目名	数 学
-----	-----

発行者 番号 略 称	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
116 日文	日本文教出版	<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「数学の学習を始めよう」「学びに向かう力を育てよう」「数学的な見方・考え方を身につけよう」が掲載されている。数学の学習を進めていくための方向性や、どのような場面で、学びに向かう力を身に付けられるのか、見方・考え方の問題は、どのような方法を使って考えていけばよいのかを、具体的な課題を示しながら説明しているため、見通しをもって学ぶことができる工夫がされている。</li> <li>・各単元の活用の場面では、学習方法を明確に提示することで、どのように取り組めば良いかなど、問題解決に向けての取り組みをわかりやすく提示している。</li> <li>・すべての章の最後にある「説明できるかな」で、数学的な表現力を高めるための問題が設定されている。既習事項から、根拠や方法・手順などを数学的な表現を用いて説明する力を養うことができる。</li> <li>・巻末の「対話ノート」「振り返りシート」は、お互いの考えを伝え合い、比較検討しながら学習を深めたり、学習の過程を振り返って、生徒の自己調整の場に活用したりするのに効果的である。また、ひとまわり小さいサイズで作成され、切り離すこともできるため、ノートに貼って活用できるよう工夫されている。</li> <li>・デジタルコンテンツを利用して、アニメーションを使って具体的な事象の連続性をわかりやすくとらえることができたり、図形などでは実際に動かして活動したりすることができる。また、問題の反復練習などにも対応しており、個別の学びにも対応している。</li> <li>・各学年で、SDGs を取り上げた数学教材を取り扱っていたり、プログラミング教育の内容も掲載されていたりするなど、カリキュラムマネジメントを意識した内容もあり、工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に、補充問題、総合問題、活用問題があり、問題数が充実しているため繰り返し解くことができる。基礎基本の定着から、高校入試対策の問題と、学習状況に合わせて選択しながら問題に取り組めるような工夫がされている。また、教科書の後半に掲載されている解答には、過程も書かれているため、個別の学習にも対応している。</li> <li>・各章に入る前に「次の章を学ぶ前に」が用意されており、次の章の学習内容の見通しがもてたり、前年度までの既習事項や算数とのつながりが確認できたりする工夫がされている。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小節の横にある「チャレンジ」には、難易度の高い問題が用意されており、理解が早い生徒が自主的に学習に取り組めるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字のフォントや改行、配色など生徒が学習しやすいようにユニバーサルデザインを意識した構成になっている。</li> <li>・「ためす」「見る」「身につける」など、デジタルコンテンツが工夫されている。問題演習に加え、課題解決に向けての見通しがもちやすく、生徒の思考を助けるための工夫がされている。</li> <li>・生徒が苦手を克服できるように、間違えやすい問題などには、キャラクターが注意喚起をするなどの工夫が設けられている。</li> <li>・各内容に「めあて」を朱書きしてわかりやすくしていたり、「例」のすべてにタイトルが設けられていたりするなどが、どの生徒に対しても、何を学習するのか、何ができるようになればよいのかが明確に提示されている。</li> <li>・「数学のたんけん」では、各単元の内容に関連あるコラムや、高校数学の発展的な内容を取り上げ、数学と身のまわりの事象とのつながりを感じたり、学習に対する意欲を高めたりできるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;総評&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツを利用して、授業の内容を補ったり、個別学習にも対応したりできるように配慮がされている。</li> <li>・巻末の「数学 マイ トライ」は充実しており、数学を身近に感じられる。歴史、国語、プログラミングなど、他教科と関連や、仕事とのつながり、身近な事柄といった内容が取り上げられているため、数学に対する興味関心をもつことができる。</li> <li>・キャラクターとして外国にルーツをもつ生徒や、女子中学生がスカートやスラックスを履いていることで、多様性を認め合う態度を養うことにつながっている。また、キャラクターの対話を通して、課題を導き出すような工夫がされている。</li> </ul>
--	--	---